

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2009.6

vol. 39

## 標準的治療で治癒のえられない 造血器腫瘍に対する免疫細胞療法

当院では急性白血病を始めとして多くの造血器腫瘍の患者さんの治療を行なっています。化学療法や放射線療法により順調な経過で治ったと考えられる患者さんも増えてきましたが、残念ながら従来の治療法では効果が不十分で、再発もしくは再燃を来し、最終的には亡くなる患者さんもまだ多くいらっしゃいます。再燃、再発に対しては抗癌剤大量療法や、造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植など）により治癒を目指しますが、年齢や、臓器障害の程度、あるいはドナーさんがみつからない等のため、全ての患者さんに適応することは困難です。

当科では、このような患者さんを対象に、がん抗原（WT1ペプチド）と樹状細胞を用いた免疫細胞療法を実施すべく準備してきました。



ウイルスや細菌などの病原体は、その病原体特有の蛋白（抗原）を持っています。身体の中に病原体が侵入すると、その病原体を直接捕まえたり、

病原体が感染した細胞を捕まえて、細胞性免疫の中心であるTリンパ球に病原体のもつ抗原を教える細胞（抗原提示細胞と呼ばれます。樹状細胞は最も効果的働きをする抗原提示細胞です）がいます。Tリンパ球と抗原提示細胞は、共同でこの抗原を持った病原体や病原体が感染した細胞を身体の中から取除く働きをしています。このような身体を守る働きは感染症だけでなく、がんに対しても起きていると考えられています。がん細胞には、がん特異的抗原あるいはがん関連抗原とよばれる抗原がみつかっています。先に述べた樹状細胞はがん抗原をもったがん細胞を取り込むとリンパ節へ移動し、そこでTリンパ球にがん抗原を教えます。それを認識したTリンパ球は、体中を回ってその抗原を持って



る細胞、すなわちがん細胞を狙って攻撃すると考えられています。がん抗原の中で、最もTリンパ球に見つけやすいがん抗原の一つとされているのが、WT1蛋白です。WT1蛋白は、小児の胃腸がんであるウイルムス腫瘍でみつかった遺伝子（ウイルムス腫瘍遺伝子 WT1遺伝子）によって作られる蛋白です。大阪大学医学部の杉山教授らのグループの研究から、ウイルムス腫瘍以外の多くのがん細胞にもWT1遺伝子が存在し、それらの細胞でWT1蛋白が発現していることが明らかとなりました。造血器腫瘍細胞でもWT1遺伝子や、その遺伝子産物であるWT1蛋白の過剰発現が報告されています。大阪大学では、杉山教授らを中心に、2000年から白血病、乳癌および肺癌の患者さんにWT1ペプチド（WT1蛋白を断片化したもの）を投与する第I相臨床試験が開始され、その安全性と効果が実証され、現在ではより多くの種類の癌の患者さんを対象に、臨床試験が行なわれています。

一方、がん抗原と自己樹状細胞を用いたがんに対する樹状細胞療法は、世界的に研究開発が行なわれているがんの治療法の一つです。我々は、東京大学医科学研究所で研究開発された樹状細胞療法に、WT1ペプチドを組み合わせた樹状細胞ワクチン療法を展開しているテラ株式会社と提携し、造血器腫瘍に対する免疫細胞療法を準備してきました。この治療を実施するには患者さんの腫瘍細胞にWT1が発現していること、白血球の型がHLA-A2402あるいはHLA-A0201であること、樹状細胞の治療期間として3-4ヶ月を要するため全身状態が保たれていること（外来通院が可能）などいくつかの条件を満たす必要があり、全ての患者さんが対象となるわけではありません。また、現状では自由診療（保険外治療）となり患者さんの経済的負担も大きく、さらに研究的治療という側面もあります。この治療法は、信州大学附属病院、札幌北療病院（2009年の造血細胞移植学会の会長施設）を含め国内9施設で実施されていますが、造血器腫瘍を対象とした取り組みは札幌北療病院に次いで2カ所目です。本年3月には無菌細胞調整室も完成し、当院倫理委員会での承認もええました。患者さんおよびご家族に対するインフォームドコンセントには充分時間をかけ、慎重に進めていく予定です。



（副院長（血液内科） 花田 修一）

# ICT (感染対策チーム) の活動

病院感染対策は、病院感染を未然に防ぐとともに、感染症が発生した場合には適切な対策実施し、速やかに終息を図る必要があります。院内感染対策委員会が感染対策の決定などを行う監督・決定機関とすると、ICT(Infection Control Team)は病院感染対策を実践する実働部隊になります。当院でも、平成17年11月から院内感染予防対策委員会の下にICTを組織し活動しています。ICTは、感染制御医(Infection control doctor : ICD)、外科系医師、内科系医師、副看護部長、看護師長、感染管理認定看護師(Infection Control Nurse:ICN)、薬剤師、細菌担当臨床検査技師、レントゲン技師、栄養士、事務職の他、必要と認められたメンバーを加え構成されています。発足当時は、メンバーはすべて兼任で活動をしていましたが、平成21年4月よりICN1名が専従となり、現在活動しています。



ICTは、

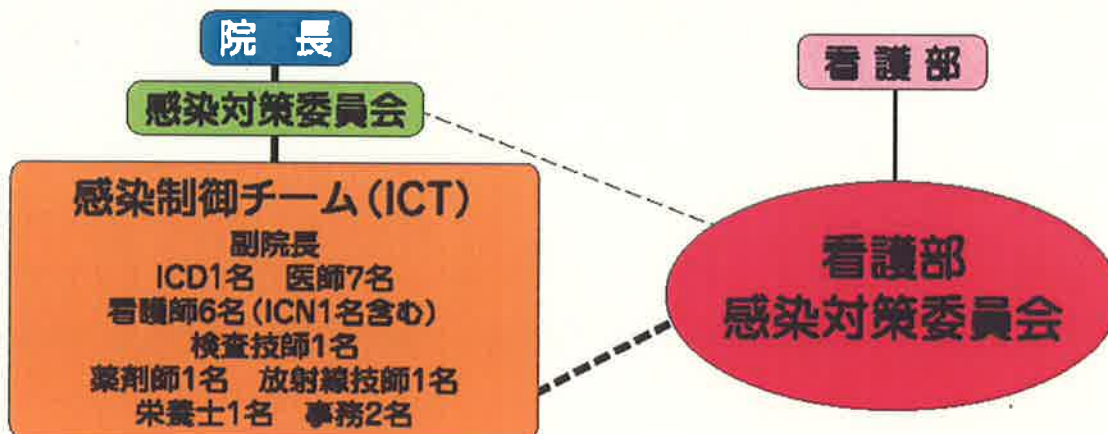
1. ICT会議(月1回)
2. 薬剤耐性菌検出時の病棟ラウンド及び報告
3. 院内感染対策講習会の実施
4. 感染症発生時の相談と助言  
(コンサルテーション)
5. 院内感染症発生時の対策と実施
6. 院内感染対策マニュアルの改訂とマニュアルの整備
7. 予防接種の実施
8. 指定抗菌剤の届け出制の開始
9. サーベイランスの実施
10. その他、

突発的な事象(例えば、新型インフルエンザ対策など)に対する感染対策の構築と実践などの活動を通じ病院感染の発生の予防対策や、発生時における迅速な対応の徹底に務めています。今回の新型インフルエンザの対応では、保健所や県医師会等と連携しながら対策を立て実施しています。

(副看護部長 古満 桂子)



## 感染対策の組織



## 教育担当看護師長として考えること



4月より教育担当看護師長の任命を受け、早2ヶ月が経過しました。今年度は7:1看護の導入のため看護師が増員となり、新人看護師53名、転勤者と既卒看護師16名の計69名の看護師が新しく仲間入りしました。4月当初はこの人数を考えただけで、身震いがしました。新人53名を一人前の看護師に育てることができるだろうか？途中で離職者は出ないだろうか？と重い重圧感が背中のにのしかかりました。しかし、その不安も数日のうちに軽くなったのは自分のポジティブ思考??ではなく、現場で教育しているスタッフの姿を見て頼もしく安心できたからです。昨年度の教育委員会でも新人教育プログラムを立案し、指導するプリセプターへの教育も充実していたので、各病棟すばらしい指導力を発揮してくれています。新人の皆さんも一生懸命業務に取り組んでいます。私の役割は現場を自分の目でしっかりと見て、新人や先輩看護師達が患者さんの目線に立った安全で優しい看護を実践できるようにサポートすることであると実感しています。そして看護職員全員が患者さま一人ひとりのニーズを尊重し、回復力につながるケアを実践できるよう看護力を向上させたいと思います。看護の仕事は回復させる喜びばかりではなく、患者さまとともに苦痛を共感することや命と直結した危機感や緊張感のあるとても厳しく責任のある仕事です。しかし看護師はいつも笑顔と思いやりを忘れてはいけません。辛い時や悩みがある時はいつでも相談に来てください。プリセプターがお姉さんの存在であるように、私を病院の母親と思って気持ちを癒しにきてください。少しでも力になれば嬉しいです。

さて、今後の活動内容として、院内においては経年別研修や集合教育、看護研究、専門看護師養成研修の構築などに取り組んでいきます。研修生や研究メンバーが課題目標を達成して1年後に良い結果が出せるように支援していきます。そして当院の看護を院外において発表できる機会を有効に活用しようと思っています。又、10月には九州ブロック主催の循環器病エキスパートナース研修を企画しています。今年で8回目の開催であり、年々バージョンアップした研修内容となっています。今回は2週間の中にBLS資格取得の研修も組み入れ、九州管内の国立病院機構から多くの研修生を募集中です。これらの企画を運営するにあたり、院長先生、看護部長さんはじめ医師やコメディカルスタッフなど多くの病院スタッフの方々の協力を頂いており、たいへん感謝しています。鹿児島医療センターの医療の質の向上をめざして、実りのある教育ができるように微力ですが、頑張りたいと思います。

(教育担当看護師長 深川 俊子)



# 新 任 紹 介



循環器科 ありおかわ りょう  
**有川 亮**

平成16年に鹿児島大学を卒業し、旧第一内科に入局しました。このたびは平成21年4月より鹿児島医療センター循環器科にて勤務させていただくことになりました。皆様にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導よろしくお願ひ申し上げます。



泌尿器科 まつお みきひこ  
**松尾 幹彦**

平成21年4月より勤務させていただくことになりました。「患者様のために」を信念として当院での泌尿器科診療に臨んでいきたいと思ひます。充実した施設やスタッフに囲まれ、まだまだ勉強しなければならないことが多い毎日ですが、頑張っていきたいと思ひます。皆様にご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、ご指導ご鞭撻の程どうかよろしくお願ひ致します。



脳神経外科 はまくら ただし  
**浜崎 禎**

平成21年5月1日付けで熊本大学脳神経外科から赴任致しました。平成5年に卒業後、脳神経外科一般の臨床、神経発生/再生の研究をしてまいりましたが、特に機能的脳神経外科を専門にしております。鹿児島市は住みやすく、病院内も充実した環境で、また新しいことが勉強できると期待に胸を膨らませております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



外科医師 かいえだ まもる  
**海江田 衛**

平成21年5月1日より外科医師として採用していただきました。前任地は鹿児島大学病院旧第2外科で、これまで消化器外科の診療に従事してまいりました。早く病院のシステム等に慣れて、スムーズに仕事をこなしていけるようにしたいと思ひます。今後とも何卒よろしくお願ひ致します。



循環器科 おいはら けいし  
**才原 啓司**

5月に鹿児島大学病院から赴任しました。患者さんが自分の体に興味をもって頂けるよう診療していきたいです。循環器科メンバーの1人としてお役に立てるよう努力していきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



## 編 集 後 記

6月に入りいよいよ梅雨の時期を迎えました。夏はもうすぐそこです。

私の前任地、沖縄ではすでに梅雨まっただ中で、梅雨明けの日には前日までの大雨が嘘のように朝起きて外を見ると抜けるような青空と白い雲・強烈な日差しと様々な色のコントラストに夏の到来を感じる事が出来ます。そして

梅雨明けの日となることの多い6月23日は沖縄戦終結の日、慰霊の日で学校も休みになります。戦争を知る世代の方々も少なくなり戦争の悲惨な体験を受け継ぐのが年々難しくなりますが、この日を機会にもう一度戦争について見つめ直してみてもどうでしょうか。 (担当:井上)

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246  
http://www.kagomc.jp 脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】 濱田・大波・井上・中島・田添・吉留・善福  
直接電話 ▶ 099(233)4425 フリーダイヤルFAX専用 ▶ 0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

